

3 ばれいしょにおけるスクープの活用可能性確認

1 課題を取り上げた理由及び目的

ばれいしょの作期（10～4月）とさとうきびの農繁期（8月，12～4月）がずれるため，品目間で労力補完ができないか，関係機関と検討した。スクープは小型トラクタで用いるさとうきびの中耕用アタッチメントで，ばれいしょ生産者の大半は小型トラクタを所有しているため，スクープがあれば夏場に作業受託できる。ばれいしょ生産者にスクープ導入を推進するにあたり，ばれいしょでの活用可能性を検討する必要がある。令和2年度，徳之島支場と連携し，培土の予備試験を実施したところ，土壌水分がある程度あれば成功するが，少ないと失敗するなどしたため，データの蓄積が必要である。

2 実証の概要

- (1) 内容 スクープを用いた場合のばれいしょ培土作業の可否判断
- (2) 設置場所 伊仙町検福
- (3) 耕種概要
 - ア 対象作物 ばれいしょ
 - イ 品種 ニシユタカ
 - ウ 作型 裸地早掘り大島型
 - エ 定植日 令和3年10月
 - オ 培土日 令和3年11月16日

3 調査結果

- (1) 培土効果の調査
 - ア 畝高 25cm
 - イ ベッド幅 20～25cm
- (2) 培土効率の調査
 - ア 作業時間 約30分/10a
- (3) 土壌条件の調査
 - ア 質量含水率 21.23%



4 考察

- (1) スクープにオプションの板（写真赤丸）を装着することで，畝高約25cmまで培土が可能で，作業時間は，慣行の管理機に比べ約半分の10aあたり30分程度となった。
- (2) 定植前にスクープで溝を切り，ガイドラインを作成しておくことで，培土時の走行が安定する。
- (3) スクープ所有者がさとうきびの中耕やばれいしょの培土を行うことで，効率的導入・作業補完が期待できる。

5 残された課題

スクープ導入に向けた手引きの作成

6 実施者 松ノ下 和輝

